公益財団法人８０２０推進財団

令和７年度　歯科保健活動助成事業報告書［抄録］

１．事業名：

多世代多職種連携によるフレイルドミノ予防啓発活動

２．申請者名：

一般社団法人佐世保市歯科医師会　疊屋文人

３．実施組織：

佐世保市歯科医師会、長崎県歯科衛生士会佐世保支部、長崎短期大学、長崎国際大学、佐世保市相浦地域包括支援センター、佐世保市早岐地域包括支援センター

４．事業の概要：

今回我々は、相浦地域包括支援センターおよび早岐地域包括支援センター圏域の関係団体と近隣の大学と共同で地域のイベントに参加し、そのイベント内で各専門職がフレイルドミノの各ドミノに関する解説と相談対応をそれぞれが行う「啓発活動」を行うこととした。

オーラルフレイル予防の取り組みが地域住民主体で取り組むことができるように、フレイルドミノに向きあう圏域の専門職と市民を地域に増加させ、啓発活動を促進させることを計画しこの事業の目的とした。今回の事業により我々は、オーラルフレイルサポーターの養成と多世代地域住民へのポピュレーションアプローチの促進、多職種における包括的ケアおよび連携強化の促進を図ることを期待できる成果としている。

５．事業の内容：

①各地域包括支援センターの関係団体および専門職のベクトル修正

②各地域包括支援センターが参加する地域イベントでの多世代に向けた介護予防の啓発活動

③地域の関係者等への報告会（次年度に向けてのベクトル修正）

④集約したデータをもとに新たな地域住民および専門職への発信

６．実施後の評価（今後の課題）：

昨年の事業結果と同様に高齢者だけでなくファミリー層を獲得することができ、多世代にわたる予防啓発活動ができたのではないかと感じている。自治協議会との連携が高まり、次年度は広報活動に力をさらなる期待ができる状態となった。『地域住民⇔自治協⇔地域包括支援センター⇔事業所や専門職』という地域のつながりができた証である。包括支援センターに相談をしてくる利用者は悩みに悩んだ結果であり、ハインリッヒの法則で表すとアクシデントとして表現することもできるのではないかと感じている。その場合、プレフレイルやプレフレイル予備軍もハインリッヒの法則に当てはまり、介護予防として１：２９：３００を制さなければ、介護関係の仕事は逼迫した状況が継続されマンパワーが充足されないことになるだろう。包括支援センターに相談にきた利用者を氷山の一角として捉えることができているのかで各包括支援センターの介護予防への力の入れ方が違うのではないかと感じたため、この事業を通して、佐世保市全体の包括支援センターへ啓蒙活動を行う予定である。